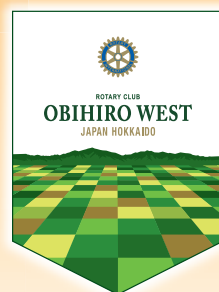




帯広西ロータリークラブ 第2031回例会 2014.2.12 会報



■RI第2500地区テーマ■

「讚えよう地域を!クラブを!会員(自分も)を!
ロータリーとの出会いに感謝!



■クラブ・テーマ■

「ロータリークラブに出席し、ロータリーを楽しもう」
(Attend at the Rotary Club, and let's enjoy a rotary)

帯広5ロータリークラブ・芽室ロータリークラブ・音更ロータリークラブ 合同例会

総司会

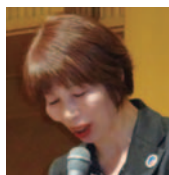
帯広RC 及川SAA



会長報告

帯広RC 渡辺喜代美会長

本日は、7ロータリークラブ合同例会に多数ご出席いただきありがとうございます。ホストクラブの帯広RC会長渡辺喜代美でございます。『世界理解月間』の例会が皆さまにとって実りあるものにしようと担当の世界社会奉仕委員会・小林委員長、小澤理事と共に準備をさせていただきました。色々いたらぬ点があるかと思いますが、どうぞRCの友情にてお許しいただければ幸いです。ホストさせていただけます事、大変光栄に思っています。高いところからではございますがお礼申し上げます。



さて、私達日本人ロータリアンが世界を理解するうえで忘れることができない人物として、三人の国際ロータリー会長のお名前を挙げたいと思います。東ヶ崎(とうがさき)潔(きよし)氏、向笠(むかさ)廣次(ひろじ)氏、そして昨年まで活躍された田中作治氏。

東ヶ崎潔氏は、1968-69年度RI会長で、東京ロータリークラブの会員。「PARTICIPATE! (参加し敢行しよう!)」というテーマを掲げています。このテーマは英語で言えば1語、歴代で最も短いテーマでした。1895年9月24日アメリカ生まれ。豊かな英語力と米国とのコネクションを見込まれ、世界教

育者会議日本事務局長、1939年のニューヨーク万国博覧会コミッショナーなどを務め、日本における国際理解の増進に貢献しました。太平洋戦争中は、ジャパン・タイムズの編集局長として働き、日米両国の豊富な知識をもって日米の誤解の溝を防ぐよう努められ、後にジャパン・タイムズ社長に就任、当時の水曜会。戦後、東京ロータリークラブ復活メンバーとしてその名を連ね、1956年東京クラブ会長、以後国際大会などで講演をされるなど素晴らしいスピーチで世界のロータリアンにロータリーの心を伝えていらっしゃいます。

向笠廣次氏は、大分県中津RC会員で1982-83年度にRI会長を務めました。彼のテーマは、「Mankind is one, build bridges of friendship throughout the world. (人類はひとつ、世界中に友情の橋をかけよう)」。国際協議会のスピーチでは、「世界中の人々はみんないとこ同士なのです」という言葉を何度も使われたそうです。向笠氏は1911年11月9日生まれの精神科医で、国際的にも名を知られた精神科のドクターだったそうです。彼は、人類は国籍、肌の色、言語、宗教などによる区別は無く、あるのは頭脳の機能による幾つかの性格の分類だけであると言っています。第二次世界大戦直前、世界各国で行われた精神医学の調査によると、各国における人間の気質、あるいは性格の分類は、その国の人口に対する比率がほとんど同一であることが報じられたそうです。向笠氏もその調査に参加し、日本の場合の比率も他国と一致していることを発見されています。さらに向笠氏は自分の家族のルーツ

2014年
2月

世界理解月間

ニコニコ
献金

累計

327,000円 (2月12日現在)



会長 齊藤 憲生
幹事 奥田 頼昌

副会長 佐藤 聡
副会長 石原 英樹

会場監督理事 横田 幸宏
プログラム委員理事 太田 豊

発行：広報委員会
委員長 北川 勝啓 (副) 森 房明



例会日/木曜日 12時30分~13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

を考えていたとき、お孫さんから「おじいさん、僕のおじいさん、おばあさんは何人いるの?」と聞かれ計算した結果、10代前までさかのぼると1,024人となり、20代前には100万人、30代前には10億人という天文学的数字になることを知ったそうです。そこで向笠氏はこの答から得た結果、「人類は疑いも無くひとつの大きな家族であるということであった。」とおっしゃっています。

田中作次氏につきましては、皆さんご存知だと思いますので、この場での紹介は控えさせていただきますが、三人のRI会長の姿から私は、「ロータリアンとはいつの時代もそれぞれの立場で世界を体感し、行動する奉仕団体の一員である」という事を強く感じました。

本日は、講師に大和教育研究所・所長の小田島裕一様をお迎えして、「国境を越えた人間作りから見える国際理解～世界が賞賛する「日本人という生き方」～」と題してお話いただきます。限られた時間

ではありますが、皆様と一緒に世界理解を深めていきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

会務報告

帯広RC 小田 剛幹事

- ・帯広西RC、2月13日(木)の例会は、2月12日の繰上げ例会と致します。
- ・帯広北RC、2月14日(金)の例会は、2月12日の繰上げ例会と致します。
- ・帯広南RC、2月17日(月)の例会は、2月12日の繰上げ例会と致します。
- ・帯広東RC、2月18日(火)の例会は、2月12日の繰上げ例会と致します。



②帯広西RC、創立記念夜間例会開催のご案内
日 時 2月20日(木)午後6時30分

場 所 北海道ホテル

③帯広北RC、創立記念夜間例会開催のご案内
日 時 2月21日(金)午後6時30分

場 所 ホテル日航ノースランド帯広

◆プログラム

帯広RC 小澤昌博国際奉仕担当理事



国境を越えた人間作りから見える国際理解 ～世界が賞賛する「日本人という生き方」～

小田島 裕一 氏 プロフィール



1968年札幌生まれ。元中学教師。2006年6月に、JICA青年海外協力隊員としてアフリカのウガンダ共和国に赴く。ウガンダ野球教会に所属し、現地での野球の指導、普及に努めた。「野球を通じた人間教育」を掲げ、高校野球部の指導にあたりるとともに、ウガンダナショナルチームの監督も務め、北京五輪予選にも参加した。わずか6ヶ月の間で日本人の躰を習慣化し、人間的成長を遂げたウガンダ野球選手達。自らの夢を誇らしげに語るウガンダ野球選手達から、私達日本人が学ぼうという趣旨で2008年1月に13名のウガンダ野球選手を招聘し、ウガンダ国際交流が行われた。帰国後2008年7月より有限会社ゴーアヘッドジャパン取締役役に就任。日本の根幹をなす「教育」の再興のために、「日本人という生き方」に焦点を当て、北海道を中心に全国各地で講演活動を行っている。



《著作紹介》

・著者からのコメント

日本人一人ひとりが、自らの可能性に気づき、「日本人という生き方」を大切にしたいとき、日本は必ず良い方向に動いていくだろう。私は日本人の底力を信じている。

<あとがきより>

・出版社からのコメント

アフリカ、ウガンダの野球少年達に、日本の躰と習慣を大切にしたい人間教育に挑戦！熱血・元中学教師が「国境を越えた人づくり」から気づき学んだ、未来のためにあるべき日本人の姿を提唱する。

演題 国境を越えた人間作りから見える国際理解

大和教育研究所 所長 小田島 裕一 様

世界が賞賛する私達の美しき習慣、国際化が進む今日、地域においても、ビジネス活動や文化面などでも益々、外国とのビジネスやスポーツ、文化等あらゆる場面で交流する機会が増えてきます。そうした中で、海外では私達日本人がどう評価されているのか、私達は何を大切にしなければならないか、私達自身が、きちんと理解しなければなりません。長年の海外でのボランティア活動で培った経験から、日本人の生き方と評価についての講演

